

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700472		
法人名	有限会社ひまわり		
事業所名	グループホームこのは	1F	
所在地	河東郡音更町新通20丁目1-1		
自己評価作成日	平成 30年 12月 18日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosvoCd=0194700472-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成31年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「その人らしさ」を大切にすることを理念とし、その人それぞれにあった支援をしている 食事の献立は、毎週メニュー会議を行い入居者の食べたいものを取り入れている 日常の買い物もほぼ毎日、入居者と一緒に出掛け好きなものを選択して頂いている 日々の生活の中で、炊事・掃除・畑仕事等役割を持ちながら、それぞれが活躍できる場面作りをしている 本人の希望に沿った外出機会を持っている ご家族には、毎月写真付きのお手紙にて近況を報告している 入居料を現金で頂く事で、毎月1回は直接お話しする機会や交流機会を持っている 環境面では、各居室にトイレ・洗面台がありプライバシーが確保されている ご家族が宿泊できる部屋があり、交流する事ができる</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所では利用者本位のケアを目指して、利用者について、どのような形の介護が必要かを測るため数値化した記録を活用し介護に当たっている。この数値化した記録とモニタリングやアセスメントを基に介護計画を作成している。利用者の体調や状況によって、イベント等の参加や買物に行ったり近隣の温泉に出かけるなどの外出を行ったり、レクリエーションへの参加を促しながら充実した生活を支援している。食事の献立は利用者の要望を取り入れながら、利用者と一緒に買い物に行ったり、屋外での行事食等、食事に対する興味や関心が向くように努めている。町内行事の参加や地域住民との交流を深めたり、保育所との相互交流、避難訓練に地域住民が参加する等、地域密着に取り組んでいる。運営法人内に各種の委員会があり、知識やケア技術の向上、職員の質向上に取り組んでいる。また事業所の方針や運営について職員の意見を反映する仕組みが出来ている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員間で話し合い作成した業務日誌に記載、日々の業務内又会議の場において、常に理念に立ち返り実践につなげる努力をしている	事業所理念「人間としての尊厳を失わずに暮らしていけるようなケアを提供する」を基に、会議などで職員で共有し、暖かい介護を目指し日々のケアに繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に入居者と参加し、交流している。近隣の方から野菜や食べ物を頂いたり、ホームからお裾分けし、親睦を深めている。	町内会に加入し、町内会のゴミ拾い等、地域に密着した活動を通して交流し、保育所と相互交流したり、散歩時に地域の方々とのふれあいや挨拶等しながら交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練や町内会の行事に入居者と参加し、理解を得られるよう努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、入居者・ご家族・民生委員・包括の方に参加して頂き、サービス内容の報告、意見を頂き反映し、サービス向上に努めている。	年6回開催し、地域包括支援センター職員、福祉課職員、民生委員、町内会長、家族及び利用者などが参加して、事業所の現状と活動報告、事故報告、避難訓練の報告等を行い、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方に訪問して頂き、交流する機会を設けている。町担当職員とは常にメールでの連絡体制がとれている。	定期的に町の介護相談員の訪問があり、相談や助言を得るような連携が取れている。また、常に町職員とメールのやり取りや電話にて連絡を取り合っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保のため基本施錠している。身体拘束については、社内研修や希望者は社外研修で知識を得て、身体拘束をしないケアに努めている。	母体法人が運営する事業所合同で、身体拘束に関する研修会を実施して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束による利用者の苦痛等の弊害は良く理解している。徘徊者の見守りも出来ており、利用者の安全に配慮するケアの提供に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、全職員社内研修にて学ぶ機会があり、防止に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各自研修で学ぶ機会があったが、ほぼ活用されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接や契約時間をかけて説明し、理解、納得して頂ける様務めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来館時にご家族に声をかける等し、伺っている運営推進会議で入居者やご家族から意見を頂き反映に努めている。 代表によるご家族への面談を実施している。 介護相談員と入居者が直接話す機会がある。	利用者の意見、要望は、日常の会話、表情などから把握し、家族とは、来訪時の声かけや家族アンケートなどで意見、要望の把握に努めている。出された意見、要望は会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表と職員の個人面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。 管理者は日常の業務の中や会議などで意見や提案を聞く機会を持っている。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めて職員との意思の疎通が図られている。会議等で意見や要望などを話し合い運営に反映させている。職員は年1回の社長面談の際に、運営や待遇等の意見や要望を話す機会が得られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回能力認定評価を実施し、実績に応じて給与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材開発計画により、自分に必要な研修や書籍の購入ができるシステムがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協会・十勝高齢者グループホーム協議会に入り、研修などに参加し、交流する機会を持っているが、相互訪問等の活動には至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接や入居前にアセスメントを行い、情報を職員に周知して安心して生活して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式の様式を活用し、ご本人の情報を頂きながら家族の要望や不安にも耳を傾けている。 事前面接には、入居するユニットの管理者が伺い入居前からの関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接などでの聞き取りや、他施設利用時は施設からも直接情報を得て、プランに反映させる様務めて務めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を送る中で、掃除や料理などできる事を一緒にやっていただき、ともに暮らすもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙で状況を報告し、来館した際や電話などで、相談している。病院受診等に対応して頂き、共に支えていく関係を築く様務めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来館して頂き、外出や外泊にも応じている。本人の希望に応じて、年賀状・お墓参り等なじみの人や場所との関係が途切れないように努めている。	馴染みの店に買い物に行ったり、家族等の協力を得て墓参りや自宅への外出、外食、馴染みの美容室に行くなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で行事やレクリエーション等関わりを持てる様努めている。 外出や温泉など一緒に出掛けたりし交流を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に病院へのお見舞いに伺ったり、亡くなった方へはお墓参りに行くなどの関係を続けているが、ご家族へのフォローには至っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で、会話や表情などからくみ取るよう努めている。	日々の些細な行動やつぶやき等から、利用者の思いや意向をくみ取るよう努めている。食事中などの会話からも希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接で本人やご家族等だけで暮らし、サービス利用している施設からも情報を頂き、職員に周知できるよう書面に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間支援シートを作成し、日々の生活状況や心身状態の把握に努め、記録を残し情報を共有、変化に伴い随時変更し対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当職員によるモニタリングを実施、会議にて意見やアイデア話し合い、本人の状況に沿ったケアプランを作成している。	会議でモニタリングの結果を報告、家族からの意見や要望等を集約して4か月毎に介護計画を作成し、家族の同意を得ている。特段の体調変化が見られるときには随時対応して、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	都度記録し、記録をもとに介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望や状況に応じてできる限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育所との関わりを持ち、訪問して頂いたり、保育所の行事に参加している。行事には、ボランティアの方に来て頂いている訪問理容や訪問歯科にも来ていただき、希望に沿って利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師に月1回訪問して頂いている。連携病院外の受診の際は医師に手紙で日常の様子等報告している。	入居時に利用者や家族からこれまでの受診状況を確認し、これまでの医療機関や希望する医療機関を受診できるように支援している。受診結果については、家族にその都度電話で報告して、情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師、健康状態や日常の様子や状況を報告し、対応している。 また、24時間いつでも電話で相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに行き、病状の把握に努め、病院との情報交換を行い、早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に書面で終末期の意向を確認している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員には徹底できていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会がある。 音更消防署に指導で避難訓練を行い、地域の方にも参加して頂いている。	地域住民も参加し消防署の指導の下、年2回の夜間を想定した避難訓練を実施している。胆振東部地震によるブラックアウトを体験し、自然災害時における認識が向上し、対応を検討している。	自然災害、特に冬期間の場合を想定した避難方法や、ブラックアウトになった場合の対処法を会議等を通して課題の発掘を行い、マニュアル化及び訓練することを期待する
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況に応じ、声掛けや対応を行っている。言葉使いだけでなく、声のトーンや視線にも気を配っている。	利用者それぞれに合わせて、誇りやプライバシーを損なわない声かけ、対応を心がけている。各種個人記録もプライバシーが守られるよう適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人に合わせ、ゆっくりとした声かけを行い、本人の思いが聞けるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた暮らしができる様に務めている。本人の希望に添える様に、耳を傾けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に衣類を持っていただき、その人らしい服装をしていただいている。本人が好む髪型など本人に確認をしてカットしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人ができるところはやっていたい。毎週食べたいものを聞き反映させている。	利用者の能力に応じて、食事の準備から配膳、下膳まで参加して、職員と一緒に楽しんでいる。自家菜園で収穫した物や地域の方からの野菜差し入れ等を素材とした料理を作り、食事中の話題にしている。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量など記録に残し、一人ひとりの状況を把握し、必要に応じて随時必要な支援を行っている。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行っている。必要な人には義歯洗浄等の支援をしている。					
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入、活用し一人ひとりの排泄パターンを見極め、必要な支援を行っている。後始末ではなく、失敗を減らすため骨盤底筋体操を取り入れ行っている。	チェック表で利用者それぞれの排泄パターンを把握し、時間毎に、あるいは様子を観察しながら声をかけ、トイレ誘導を行い自立排泄に向けた支援を行っている。骨盤底筋体操の成果が上がり排せつの失敗頻度が確実に減少している。				
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や運動の声掛けを行い、乳製品や寒天の摂取など、腸内環境を整え、薬に頼らない支援に取り組んでいる。					
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や回数などなるべく希望に応じれる様対応している。年に数回温泉入浴に出掛けお風呂を楽しんでいただいている。	週2回の入浴を基本として、入浴時間や回数は希望に添えるよう入浴支援を行っている。浴槽はヒノキ造りの為、リラックスして入浴が楽しめる。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで生活できる様に、特に時間は決めず本人の意向に沿っている。夕食後にはホットミルクを提供し、リラックスして睡眠して頂けるようにしたり、年に数回布団のダニを除去し、気持ちよく寝て頂ける工夫をしている。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全て理解していないが、処方された薬の用法や副作用が書かれた紙をファイルに閉じ、いつでも見れるようにしている。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外食に出掛けたり、好きな物を買に行ったり、散歩やドライブに出掛けたりと、個別に支援している。					

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や温泉、希望される場所に行く支援を行っている。町内会の行事にも積極的に参加し、地域の人と顔なじみになっている。	日々の散歩や買物に出かけたり、地域行事に参加したりと外出支援を行っている。また、ドライブで外食や温泉等に出かけたり利用者を楽しませている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に買い物に出掛けた際会計をご自身で行って頂きお金の管理をしていただいている。出来ない方には個々の財布を準備し支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望している入居者がいれば都度対応している。ご家族との手紙のやり取りも行い、繋がりを大切にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の飾りや置物などを置き、季節感を出している。入居者が描いた絵や日常の写真などを飾り楽しめる工夫をしている。	広々とした共有空間の廊下には絵画が飾られ、季節感ある作品が飾られている。調理室からは利用者のくつろいだ状況を確認でき、安全面に配慮している。また、温度と湿度は管理され、居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングでテレビを見たり、パズルや読書をしたり入居者がしたいことを自由にして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物をご家族に持って来てもらっている。床や椅子など入居者がくつろぎやすい方法で生活して頂いている。	各居室には洗面台とトイレが備え付けられている。馴染みの家具や備品等を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。居室入口には手づくりのネームプレートで温かい雰囲気となるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内だけでなく館内各所に手すりを設置し、バリアフリー・扉は全て引き戸になっている。また、物干しは高さを調整し、その人に合った高さで干して頂けるようになっている。テーブルは低めになっておりテーブル拭きもしやすくなっている。		